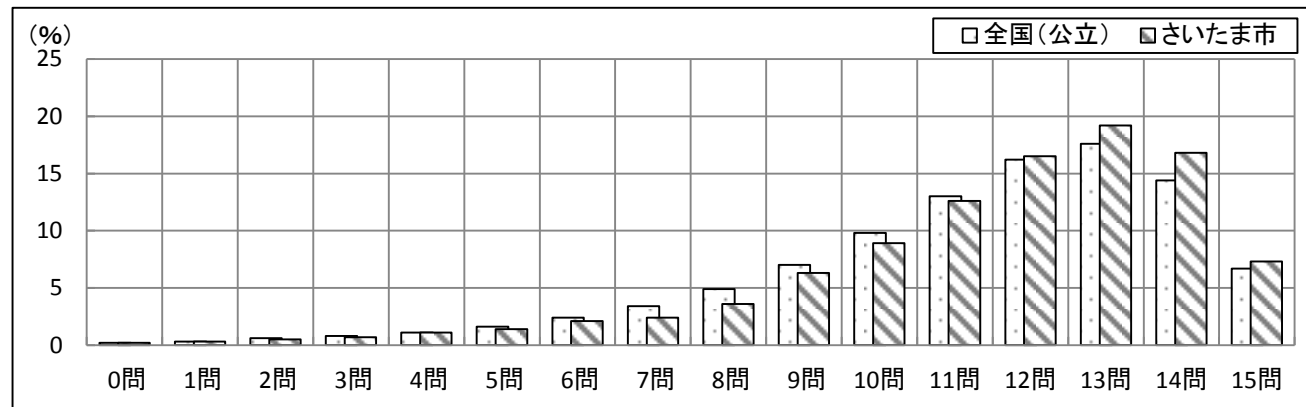


1 全体の正答率（％）

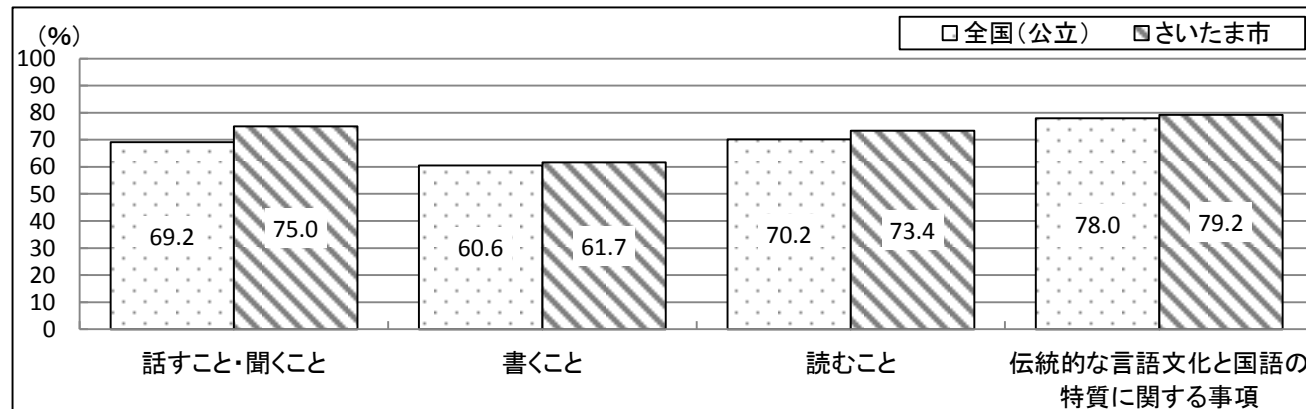
さいたま市 全国（公立）

77 74.8

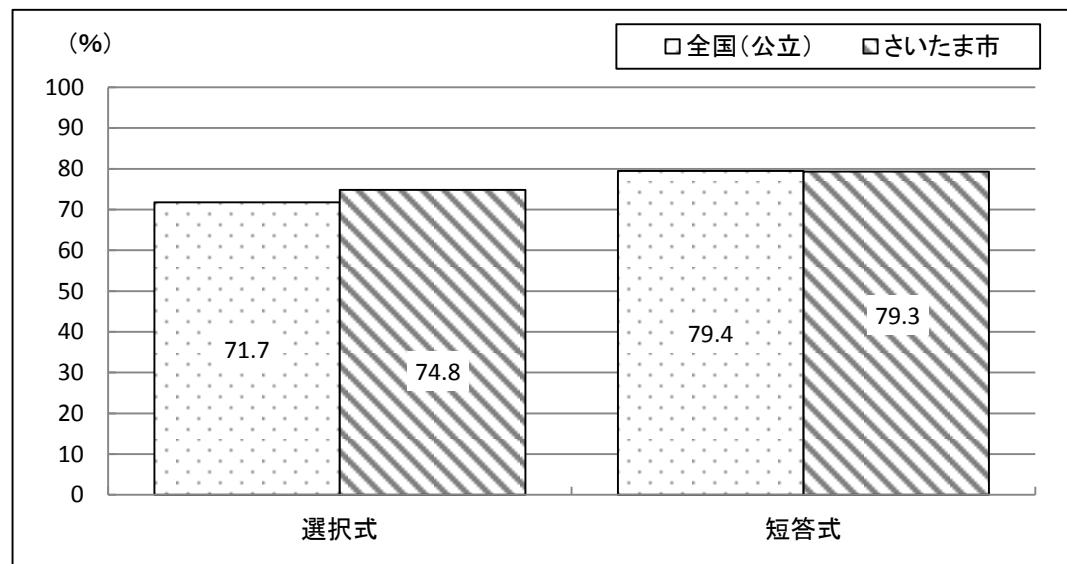
2 正答数分布（正答数ごとの児童の割合）



3 領域等別正答率



4 問題形式別正答率



5 設問別平均正答率等

※「学年」はその内容を学習する学年です。

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域等・学年				問題形式	正答率（％）		無解答率（％）	
		聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		市	全国（公立）	市	全国（公立）
1	学級文集のタイトルを決める話合いにおける野村さんの報告の説明として適切なものを選択する	3・4年				選択式	75.0	69.2	0.2	0.1
2一	お礼の気持ちを伝えるために、どのような内容を書いているのか、書かれている内容の説明として適切なものを選択する		5・6年			選択式	83.1	79.7	0.2	0.1
2二	手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する		5・6年			選択式	40.4	41.5	0.4	0.3
3	学校新聞を書くために、「時の記念日」についての【資料】から、小野さんと今村さんが中心に読むとよい段落をそれぞれ選択する			3・4年		選択式	80.1	74.4	0.5	0.5
4一	俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する			5・6年	3・4年	選択式	79.8	79.4	0.5	0.5
4二	グループの話合いを通して見付けた俳句のよさとして適切なものを選択する			5・6年	3・4年	選択式	60.4	57.0	0.9	0.7
5ア	ことわざの使い方の例として適切なものを選択する（三度目の正直）				3・4年	選択式	91.5	90.0	0.9	0.8
5イ	ことわざの使い方の例として適切なものを選択する（もちはもち屋）				3・4年	選択式	86.0	83.6	1.1	1.0
6	【「外郎売」の一部】を音読して気が付いたことの説明として適切なものを選択する				5・6年	選択式	77.4	71.1	1.8	1.6
7（1）	漢字を書く（参加たいしょう）				5・6年	短答式	40.9	42.0	11.4	10.6
7（2）	漢字を書く（4年生のきぼう者）				5・6年	短答式	77.1	80.0	5.1	4.6
7（3）	漢字を読む（申し込み期限）				5・6年	短答式	94.2	94.5	3.6	3.0
7（4）	漢字を読む（事務室前）				5・6年	短答式	91.9	88.8	3.5	3.0
7（5）	漢字を書く（箱がおります）				5・6年	短答式	77.8	76.8	12.0	11.8
7（6）	漢字を読む（指示）				5・6年	短答式	94.0	94.5	3.6	2.9

※網掛けは、さいたま市の平均正答率が全国を下回っている設問です。

◎：成果[対象となる設問] ▲：課題[対象となる設問]

【結果概要】

◎互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合うことについては、全国平均を6ポイント程度上回っている。[1]

◎ことわざの意味を理解して自分の表現に用いることについては、相当数の児童ができている。[5ア]

▲手紙の構成を理解し、後付けを書くことに課題がある。[2二]

▲学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることに課題がみられる。[7]

【指導のポイント】

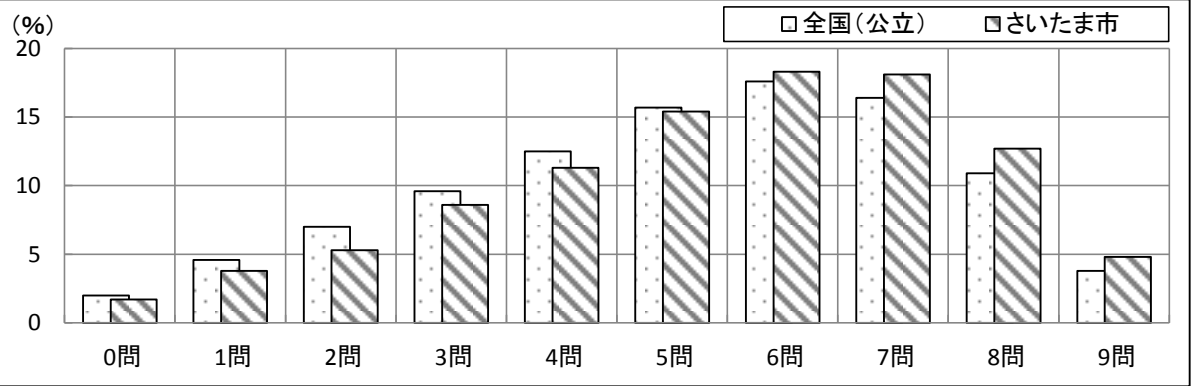
○手紙の基本的な形式などについて指導する際、「宛て名を最終行の上の位置に書くことで相手への敬意を示すことにつながる」など、手紙の形式がもつ意味について指導することが大切である。

○学習した漢字を字形に注意しながら繰り返し書いて練習することのみならず、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるように指導することが大切である。

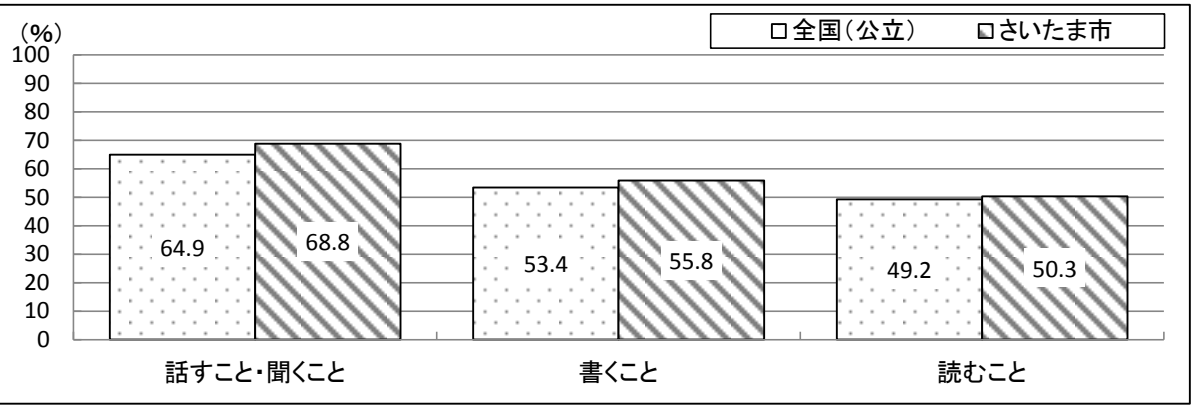
1 全体の正答率（％）

さいたま市	全国（公立）
60	57.5

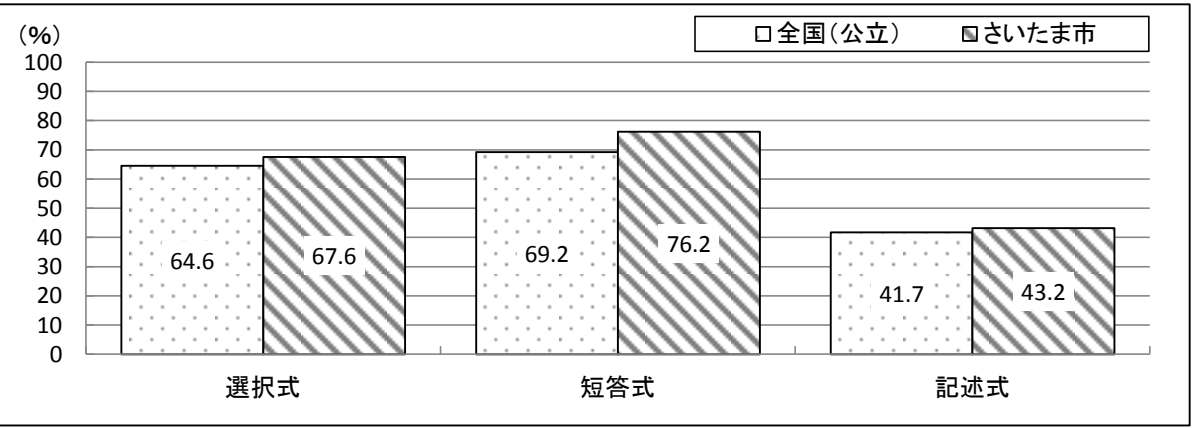
2 正答数分布（正答数ごとの児童の割合）



3 領域別正答率



4 問題形式別正答率



5 設問別平均正答率等

※「学年」はその内容を学習する学年です。

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域等・学年				問題形式	正答率（％）		無解答率（％）	
		聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		市	全国（公立）	市	全国（公立）
1ー	スピーチの練習の様子を記録した動画を見る目的として、適切なものを選択する	5・6年				選択式	79.5	77.2	0.6	0.5
1二	グループの話し合いの中で、石田さんたちは、スピーチメモを使うことのよさについてどのように考えているかについて書く	5・6年				短答式	76.2	69.2	3.7	3.8
1三	折り紙のみりよくについて、スピーチメモとグループの話し合いで出された意見を基に書く	5・6年	5・6年			記述式	50.7	48.4	2.6	2.6
2ー	【緑のカーテン作りへの協力をお願い】における文章の構成の工夫として当てはまるものを選択する		5・6年			選択式	74.9	70.8	0.7	0.7
2二	【友達の考え】と同じ考えの人を説得するために引用する文章を、【『緑のカーテンを始めよう』の一部】から選択する		5・6年			選択式	74.8	70.9	3.1	3.2
2三	「水やりに協力してくれる人をぼ集めます」の[イ]に入る内容を、中学生からの【アドバイス】を基に書く		5・6年			記述式	36.5	33.0	2.7	2.8
3ー	「きつねの写真」を読み、登場人物の相互関係と場面についての描写を捉え、[A]に当てはまる言葉として適切なものを選択する			5・6年		選択式	76.0	75.9	2.8	2.6
3二	「きつねの写真」を読んだあとの話し合いにおけるア・イの発言の意図として、適切なものをそれぞれ選択する			5・6年		選択式	32.6	28.0	3.6	3.2
3三	「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんととび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く		5・6年	5・6年		記述式	42.3	43.7	21.8	19.4

※網掛けは、さいたま市の平均正答率が全国を下回っている設問です。

◎：成果[対象となる設問] ▲：課題[対象となる設問]

【結果概要】

◎話の構成を工夫して話したり、聞き手の反応を見て話したりすることなどのスピーチメモのよさをとらえることについては、全国平均を7ポイント上回っている。[1二]

◎目的に応じて、文章全体の構成を考えることについては、全国平均を4ポイント程度上回っている。[2一]

▲目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書くことについては、課題がみられる。[2三]

▲自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図をとらえることについては、課題がみられる。[3二]

【指導のポイント】

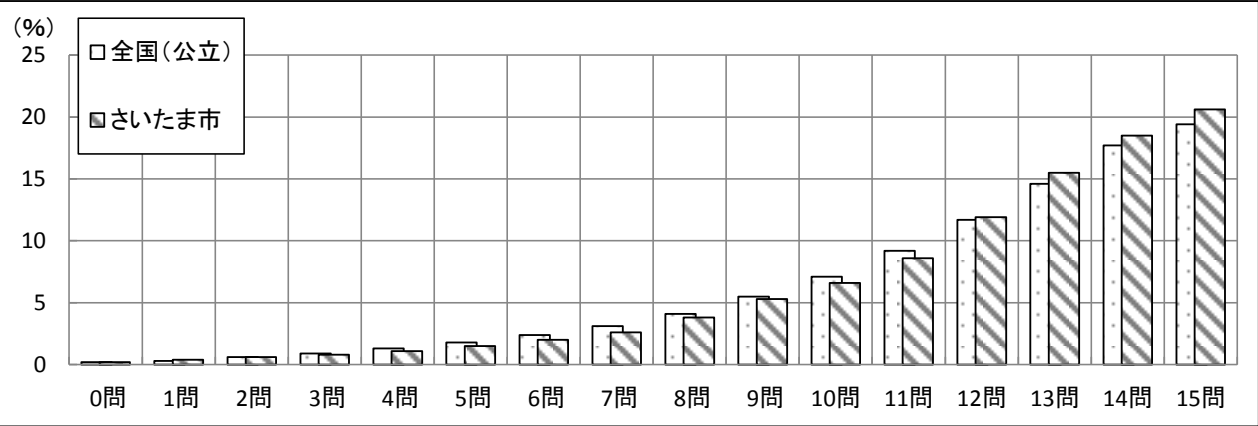
○読み手に自分の考えが伝わるような文章を書くためには、目的や意図に応じ、取材した情報から必要な内容を整理することが重要である。収集した事柄を整理し、情報と情報との共通点や相違点に着目してまとめたり、見出しを付けたりする機会を増やす必要がある。

○ものの見方や考え方を広げるためには、物語を読んで感想を伝え合い、一人ひとりの感じ方に違いがあることに気付き、自分の考えを広げたり、深めたりすることができるよう指導することが大切である。

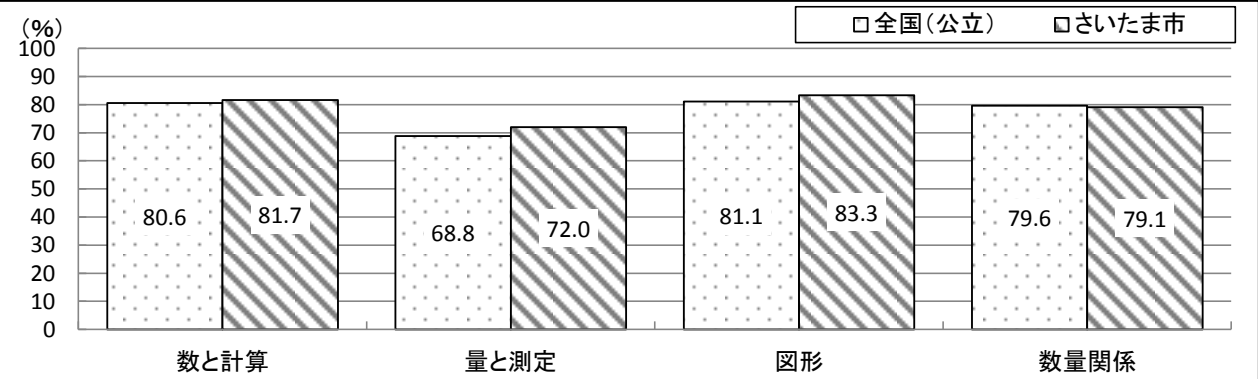
1 全体の正答率（％）

さいたま市	全国（公立）
80	78.6

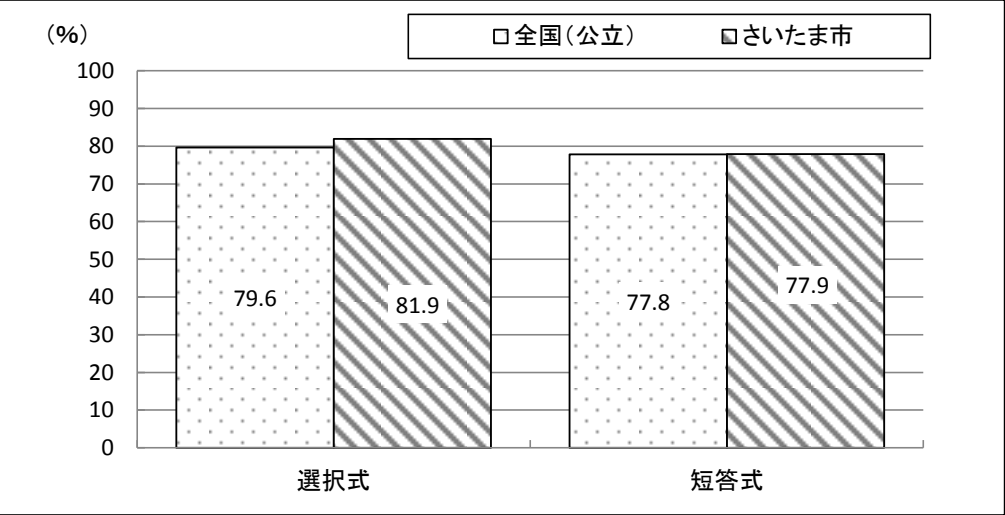
2 正答数分布（正答数ごとの児童の割合）



3 領域別正答率



4 問題形式別正答率



5 設問別平均正答率等

※「学年」はその内容を学習する学年です。

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域・学年				問題形式	正答率（％）		無解答率（％）	
		数と計算	量と測定	図形	数量関係		市	全国（公立）	市	全国（公立）
1（1）	リボンを2m買ったときの代金と3m買ったときの代金を書く	3年			5年	短答式	97.2	96.9	0.5	0.4
1（2）	買ったリボンの長さ、1m当たりのリボンの値段、代金が、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ	5年				選択式	76.3	69.9	1.6	1.8
1（3）	60×0.4を、60×4を基にして考えるときの、正しい積の求め方を選ぶ	5年				選択式	93.1	91.0	0.7	0.7
2（1）	123×52を計算する	3年				短答式	85.4	85.2	0.5	0.5
2（2）	10.3+4を計算する	4年				短答式	83.2	79.7	0.6	0.4
2（3）	6+0.5×2を計算する	4年			4年	短答式	65.3	66.6	0.6	0.6
2（4）	5÷9の商を分数で表す	5年				短答式	67.5	69.2	4.5	3.9
3	8と12の最小公倍数を求める	5年				短答式	85.1	86.2	1.1	1.2
4	重さ、長さについて任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ		1, 3年			選択式	73.3	70.7	0.7	0.6
5	示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶ		5年			選択式	70.7	67.0	1.2	1.3
6	円を使って正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く			5年		短答式	80.4	75.5	2.3	2.3
7	立方体の展開図から、示された面と平行な面を選ぶ			4年		選択式	86.2	86.7	1.0	1.0
8	はじめに持っていたシールの枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ				3年	選択式	84.7	83.6	1.5	1.4
9（1）	出席番号1番の人は二次元表のどこに入るかを選ぶ				4年	選択式	88.7	88.0	2.7	2.6
9（2）	二次元表の合計欄に入る数を書く				4年	短答式	59.3	62.8	6.1	5.1

※網掛けは、さいたま市の平均正答率が全国を下回っている設問です。

◎：成果[対象となる設問] ▲：課題[対象となる設問]

【結果概要】

◎具体的な問題場面において、乗法で表すことができる二つの数量の関係を理解することは相当数の児童ができている。[1（1）]

◎整数×小数の計算において、乗数を整数に置き換えて考えるときに用いる乗法の性質を理解することは相当数の児童ができている。[1（3）]

◎整数の乗法「3位数×2位数」の計算をすることは相当数の児童ができている。[2（1）]

◎未知の数量を表す□を用いて、問題場面を除法の式に表すことは相当数の児童ができている。[8]

▲加法と乗法の混合した整数と小数の計算することに課題がある。[2（3）]

▲商を分数で表すことに課題がある。[2（4）]

▲資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めることに課題がある。[9（2）]

【指導のポイント】

○計算の順序についてのきまりは、単に暗記するだけでなく、具体的な場面と関連付けながら理解できるようにすることが大切である。

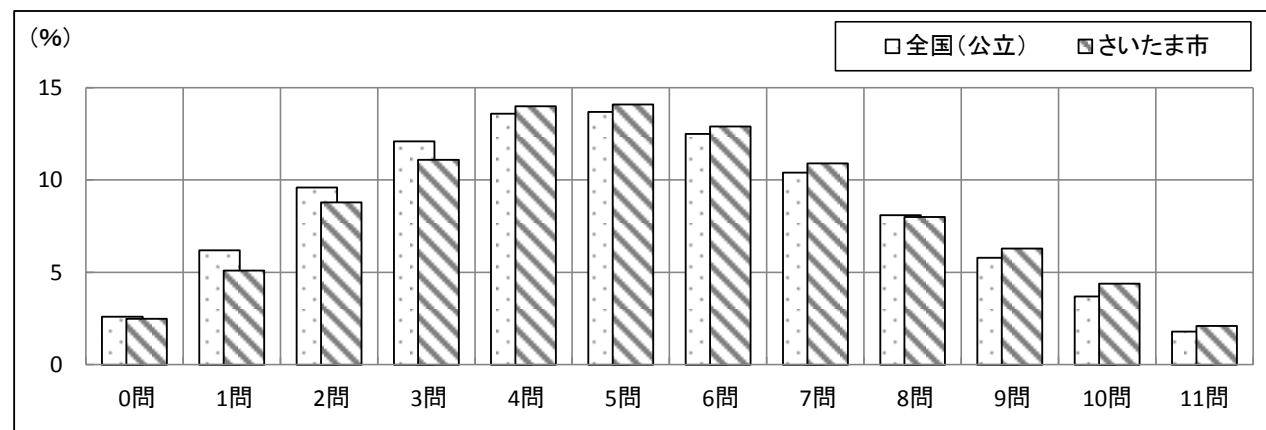
○商を分数で表したり、分数を除法の式に表したりすることで、「除法の被除数、除数」と「商の分子、分母」の関係を確実に理解できるようにすることが大切である。

○資料を二次元表に分類整理する過程を振り返りながら、合計欄に入る数値が調査した人数と一致することを確認することが大切である。

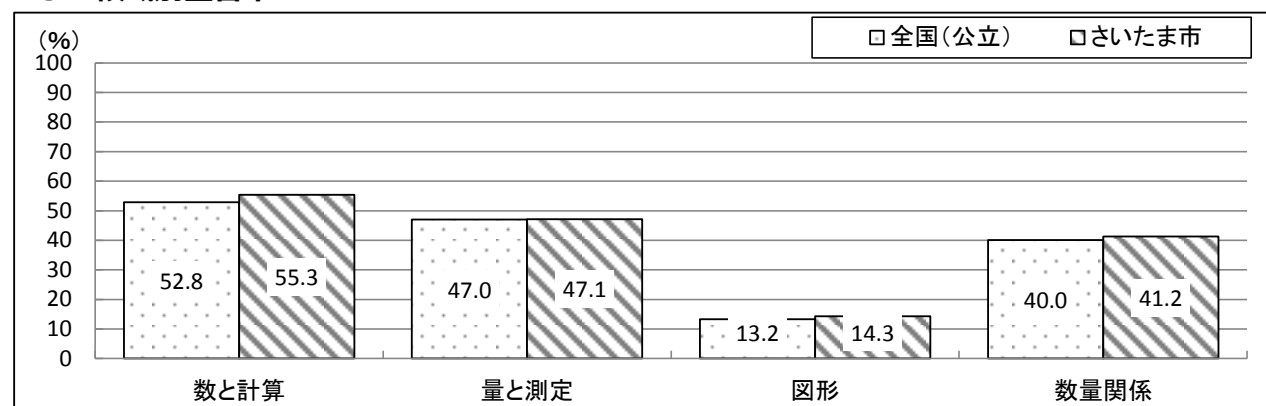
1 全体の正答率（％）

さいたま市	全国（公立）
48	45.9

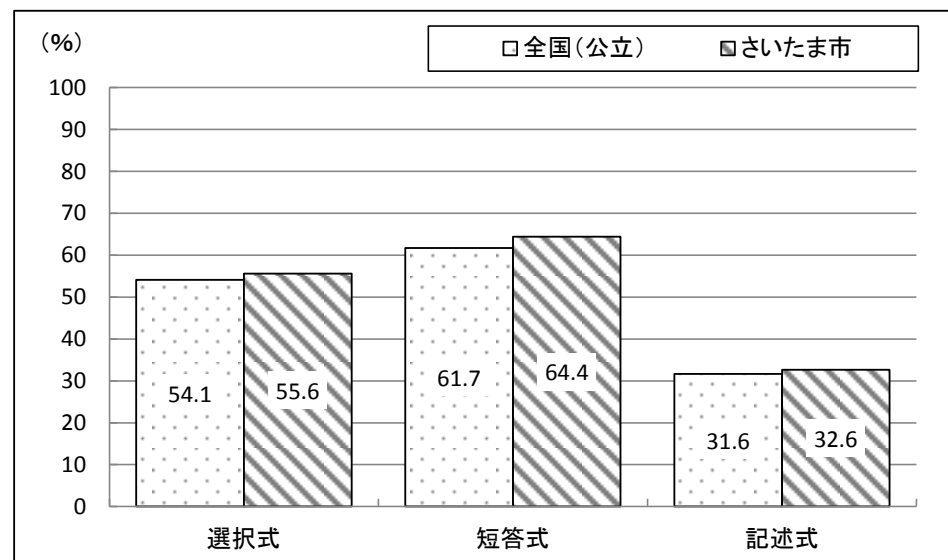
2 正答数分布（正答数ごとの児童の割合）



3 領域別正答率



4 問題形式別正答率



5 設問別平均正答率等

※「学年」はその内容を学習する学年です。

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域・学年				問題形式	正答率(%)		無解答率(%)	
		数と計算	量と測定	図形	数量関係		市	全国（公立）	市	全国（公立）
1(1)	カードの差が4の場合の、2けたのひき算の式と答えを書く	2年				短答式	79.1	76.0	1.8	2.0
1(2)	示された考えを基に、54－45の場合で残る部分を図に表す	2, 5年				短答式	83.9	81.8	3.5	3.9
1(3)	2けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く	5年			4, 5年	記述式	40.0	38.6	13.7	14.9
2(1)	小さい封筒で手紙を送る場合と大きい封筒で手紙を送る場合の、料金の差の求め方と答えを書く	2, 3年			3年	記述式	43.3	40.4	5.5	6.4
2(2)	13本の直線を使う場合、手紙の用紙の長い辺を3等分するのは、何本目の直線と交わった点かを書く	3, 5年				短答式	30.2	27.4	6.0	6.0
3(1)	飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶ		5年		4年	選択式	70.1	67.9	0.9	1.1
3(2)	仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める		5年		4年	記述式	24.1	26.1	12.4	12.7
4(1)	示された式の中の数が表す意味を書き、その数が表のどこに入るかを選ぶ				4年	記述式	41.4	39.8	4.3	4.8
4(2)	学年全体の人数に対するハンカチとティッシュペーパーの両方を持ってきた人数の割合を表しているグラフを選ぶ				3, 5年	選択式	31.5	29.3	4.3	4.6
5(1)	「最小の満月の直径」の図に対して、「最大の満月の直径」の割合を正しく表している図を選ぶ				5年	選択式	65.2	65.0	5.2	5.5
5(2)	与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだだけを書く			3年	5年	記述式	14.3	13.2	8.9	8.7

※網掛けは、さいたま市の平均正答率が全国を下回っている設問です。

◎：成果[対象となる設問] ▲：課題[対象となる設問]

【結果概要】

◎示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現することは相当数の児童ができている。[1(2)]

▲直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用することに課題がある。[2(2)]

▲仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を、言葉や式を用いて記述することに課題がある。[3(2)]

▲割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことに課題がある。[4(2)]

▲身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量に近いものを判断し、その判断の理由を言葉屋敷を用いて記述することに課題がある。[5(2)]

【指導のポイント】

○日常生活の問題の解決のために示された方法を、問題場面に適用することができるようにするため、言葉や数、式、図などに対応させながら解釈する学習活動が大切である。

○測定値の平均を求める際は、平均がおよそどのくらいになるのかを見積もったり、能率的に処理するために工夫して計算したりする学習活動が大切である。

○様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて、適切なグラフを選択できるようにするために、目的に合った適切な表やグラフを選択し表したり、読み取ったり、グラフどうしを関連付けて解釈したりするなど、目的に応じて表やグラフを活用する学習活動が大切である。

○日常生活の事象を、割合を活用して数学的に解釈するために、数量の関係を身近なものや図などに置き換えて、基準量・比較量・割合の関係を的確にとらえ判断する学習活動が大切である。